



# 「にぎわい課」って

## 中心市街地活性化のため

皆さんから広く  
意見を聴いて

今、拡大して変わりゆく本市のにぎわいは、行政だけで盛り上げていくことはできません。さまざまな市民が商業・文化・芸術・交通の分野でそれぞれネットワークを作り、それらが相互に連携して、主体的に活動することが不可欠です。



明るいサロンで意見交換も

にぎわい課は、まず街のあり方から考えていくために、現状

### 気軽に立ち寄り寄ってみませんか 分かりますやすい場所です

にぎわい課の事務所の場所は中心商店街の真ん中、中央通りと銀座通りの交差点北西にあります。目印は「みんなでつくる」の新しい前橋・前橋市役所商工部ににぎわい課」の大きな看板。みんなが気軽にまちづくりにつ

いて語り合えるよう、サロン風の会議スペースが用意されています。そこからの情報発信は市民が主役です。それはやがて「(仮称)にぎわいクラブ」のような活動となって、大きく広がっていく

やニーズの調査、まちづくりに努力している皆さんとの意見交換が必要ではないでしょうか。そのため、いつでも寄り集まって話し合える場が事務所の中に設けてあります。そこがやがてにぎやかなサロンとなって、まちのにぎわいが広がることでしょう。

そして、皆さんから寄せられた貴重なアイデアや意見をどう生かしていくのか、にぎわい課職員の皆さんの活躍に市民の大きな期待が寄せられているのです。

### みんなが一緒に 取り組みを

このような意見交換が活発になるよう、その組織として、商店街の皆さんと消費者である市民とが主体となる「(仮称)にぎわいクラブ」の誕生を期待しているとのこと。

それには、既存の商店街組合と民間のまちづくり団体が、互いの意見や考えを率直に聴いて前向きな議論を展開していかなくてはなりません。もちろん、全国の中心商店街の活性化事例やデータなどを提供する、にぎわい課の支援も重要でしょう。

ことごとく具体的な作業の積み重ねで、市街地の空洞化をなくすため、人づくりと技術面からまちづくりの総合的推進を図ってほしいものです。

中心市街地を明るく元気にするには、行政に「お願い」するだけではなく、市民も自らできることは実行しながら、にぎわい課とともに頑張っていくことが大切。みんなが一体となって取り組んでいくことが必要ではないでしょうか。

にぎわい課は「元気な中心市街地づくり」の拠点。それを進めるのは市民のわたしたちです。

ことごとく。

にぎわい課の職員の方々は地域の活性を願って、出前のようには商店街までやって来てくれました。まずは、市民がみんなでの事務所の扉を開き、交流を始めませんか。

所在地：千代田町二丁目八二二(麻屋ビル一階)

…問い合わせはにぎわい課 210 2188へ。

市は「水と緑と詩のまち」を掲げているのだから、文学や芸術の分野を取り入れて広瀬川河畔緑地を再整備する。

中心商店街の中に水路を造りコイを放し飼いにする。中央広場に遊具を置くなどして、子ども遊び場と託児所を設ける。

点在する文学碑や酒井家・松平家ゆかりの場所などを観光資源として活用するため、イベントを開く。萩原朔太郎の生家を敷島公園から元の場所に戻す。

中心商店街に屋台や駄菓子屋などレトロ感覚で統一できる通りを作り、昭和三十年代の町並みを再現。また、落語や漫才などを行う演芸場を設置する。

再開発で一階を店舗に二階以上は居住スペースにして、多くの人が住めるようにする。

名物や名産品の店を中心商店街に集める。商店主とお客の考えが違つので検討が必要。

出店したいのだが、物件や融資制度などの情報を知りたい。

前橋駅から中央前橋駅までのアクセスが悪い。国道50号五差路にある横断歩道橋も不便です。また、車両進入禁止や一方通行などの交通規制を緩和。中心市街地の駐車料金を無料にする。

最近では物騒な事件も多いので、警察に夜間パトロールを依頼。中央公民館をテルサに移せば生涯学習団体などでにぎわつ。